

営業の概況<ほくほくフィナンシャルグループ連結>

(単位:億円)

	20年9月期		19年9月期
		前中間期比	
経常収益	1,238	△19	1,257
経常利益	196	△130	327
中間純利益	375	210	164
自己資本比率	10.39%	0.42%	9.97%

当社における当中間期の業績につきましては、連結経常収益は前中間期比19億円減少し1,238億円、連結経常利益は前中間期比130億円減少し196億円、連結中間純利益は前中間期比210億円増加し375億円となりました。

連結自己資本比率は前中間期末比0.42%上昇し10.39%となりました。

営業の概況<北陸銀行・北海道銀行>

(単位:億円)

	2行合算+分割子会社		
	20年9月期		19年9月期
		前中間期比	
経常収益	1,132	△4	1,136
コア業務粗利益	875	△28	904
経費(臨時処理分を除く)	456	6	449
コア業務純益	419	△35	454
与信費用	156	27	128
経常利益	200	△119	320
中間純利益	385	222	162
不良債権比率	3.48%	△0.59%	4.07%

銀行の本来業務の収益力を表すコア業務純益は、資金利益や役務取引等利益が減少したこと、また、システム投資等による経費の増加もあり、前中間期比35億円減少の419億円となりました。

経常利益は、与信費用の増加と株式等損益の悪化により、前中間期比119億円減少の200億円となりました。中間純利益は、法人税等調整額が減少したこと、前中間期比222億円増加の385億円となりました。

(単位:億円)

	北陸銀行+分割子会社		
	20年9月期		19年9月期
		前中間期比	
経常収益	655	△15	670
コア業務粗利益	500	△33	533
経費(臨時処理分を除く)	257	1	256
コア業務純益	242	△34	277
与信費用	100	11	88
経常利益	102	△86	189
中間純利益	307	214	92
不良債権比率	3.60%	△0.66%	4.26%

(単位:億円)

	北海道銀行		
	20年9月期		19年9月期
		前中間期比	
経常収益	477	10	466
コア業務粗利益	375	4	370
経費(臨時処理分を除く)	198	5	192
コア業務純益	176	△1	177
与信費用	56	16	39
経常利益	98	△32	130
中間純利益	77	8	69
不良債権比率	3.29%	△0.48%	3.77%

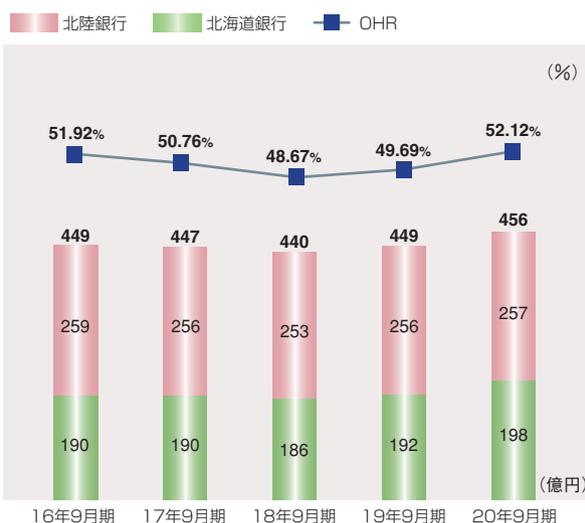
コア業務粗利益<2行合算+分割子会社>



コア業務粗利益は、資金利益や役員取引等利益が減少したことから、前中間期比28億円減少の875億円となりました。

- コア業務粗利益＝資金利益＋役員取引等利益＋その他
一般の企業で言う「売上総利益」に相当する概念で、銀行の本業におけるおおもとの利益、銀行が創造する価値の源泉です。
- 資金利益・・・貸出金、預金、有価証券等の利息収支等。
- 役員取引等利益・・・投資信託、保険の取扱手数料等。
- その他・・・外国為替売買益やデリバティブ収益等。
- 非金利収入比率・・・コア業務粗利益のうち、資金利益以外が占める割合。

経費<2行合算+分割子会社>

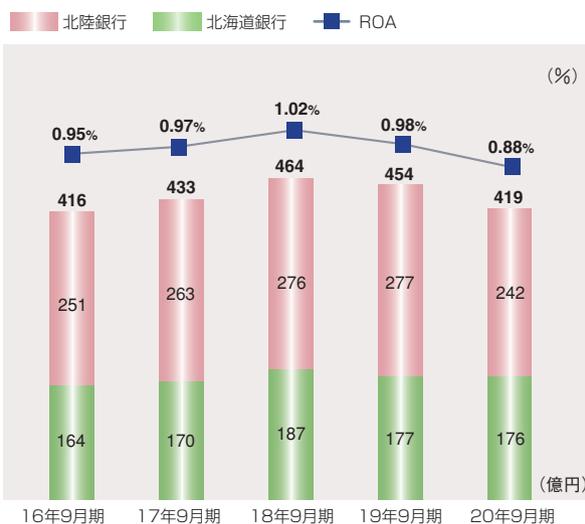


経費は、システム投資等により、前中間期比6億円増加の456億円となりました。

OHRは地銀トップクラスの水準を維持しております。

- 経費＝人件費＋物件費＋税金
一般の企業で言う「販売費及び一般管理費」に相当します。
- OHR＝経費÷コア業務粗利益
少ない経費でいかに多くの利益をあげているかを示す指標で、数値が低いほど効率的です。

コア業務純益<2行合算+分割子会社>

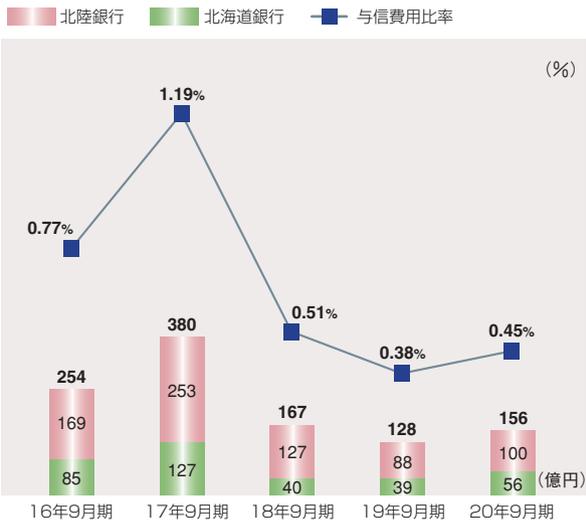


コア業務純益は、粗利益の減少、経費の増加により、前中間期比35億円減少の419億円となりました。

ROAは地銀トップクラスの水準を維持しております。

- コア業務純益＝コア業務粗利益－経費
一般の企業で言う「営業利益」に相当し、銀行の本業の成果を示したもので、銀行特有の指標です。
- ROA＝コア業務純益÷総資産（期中平均）
資産をいかに有効に活用して利益を上げているかを示す指標で、数値が高いほど効率的です。

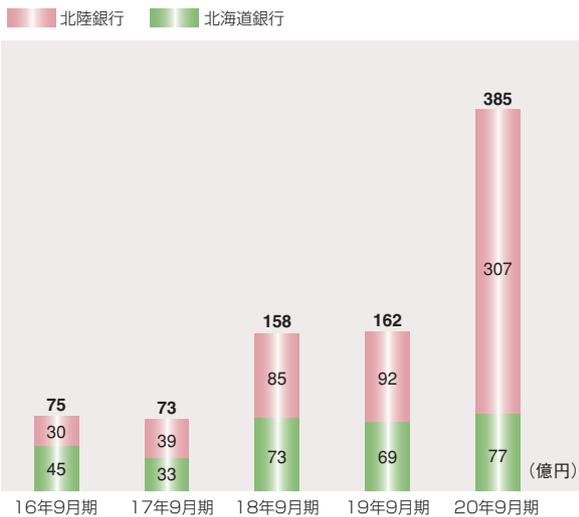
与信費用<2行合算+分割子会社>



与信費用は、大型倒産の発生や地域経済の低迷により、相応の引当処理を要したことから、前中間期比27億円増加の156億円となりました。

■与信費用=不良債権処理額+一般貸倒引当金繰入額
 ■与信費用比率=与信費用÷貸出金平残
 与信費用と貸出残高とを対比した指標で、数値の低下は、不良債権処理の進展に伴い資産の健全化が進んでいることを示しています。

中間純利益<2行合算+分割子会社>



中間純利益は、法人税等調整額が減少したことから、前中間期比222億円増加の385億円となりました。

自己資本比率<FG連結>

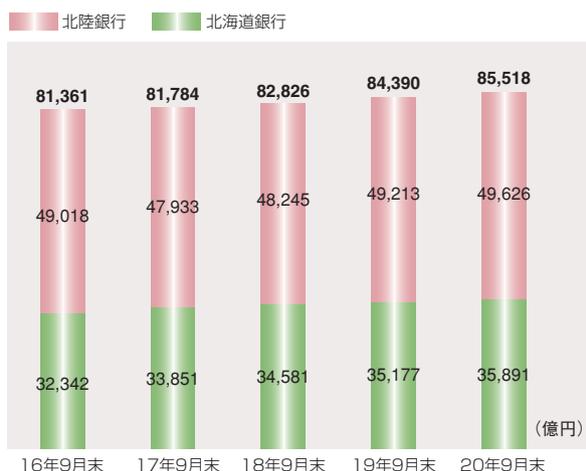


自己資本比率は、利益を着実に積み上げる一方、公的資金の一部返済(250億円)を実施した結果、前期末と同じ、10.39%となりました。

■自己資本比率
 自己資本(資本金や利益の蓄積等)が資産に比べてどの程度充実しているかを示します。この比率が高いほど安全性・健全性が高いといえます。
 ■Tier1比率
 リスク・アセット(貸出金等の資産)に対するTier1(自己資本の基本的項目である資本金・資本剰余金・利益剰余金等)の割合を示したもので銀行の本質的な健全性を示すものです。

※平成19年3月から自己資本比率算出について新しい基準(バーゼルⅡ)を適用しております。平成18年3月以前は旧基準により算出しております。

預金<2行合算>



貸出金<2行合算+分割子会社>



※北陸銀行では、従来、RMBS(住宅ローン信託受益権等)を「貸出金」に含めておりましたが、17年度から「買入金銭債権」に含めており、過年度との比較のため、RMBSを控除した計数を記載しております。

金融再生法開示債権<2行合算+分割子会社>



金融再生法開示債権は、前期末比75億円減少し、2,531億円となりました。開示債権比率は、前期末比0.16%低下し、3.48%となりました。

- 金融再生法開示債権・・・金融再生法(金融機能の再生のための緊急措置に関する法律)に基づく基準により、貸出金等の分類を公表しています。
- 開示対象債権・・・貸出金及び支払承諾見返、外国為替、未収利息、仮払金、貸付有価証券、自行保証付私募債。但し、要管理債権は貸出金、自行保証付私募債のみ。
- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権・・・破産、会社更生等の事由により経営破綻に陥っているお取引先に対する債権及びこれらに準ずる債権のことです。
- 危険債権・・・お取引先が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本及び利息の受取ができない可能性の高い債権のことです。
- 要管理債権・・・3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権(「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」を除く)のことです。
- 開示債権比率・・・総与信に占める金融再生法開示債権の割合を示しています。この比率が低いほど健全性が高いといえます。

不良債権への備え

